明星大学 人文学部 国際コミュニケーション学科 FREE MAGAZINE

GRAZIE

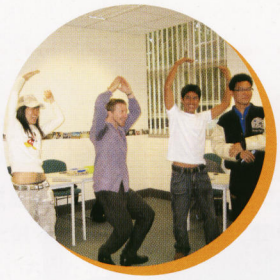
“グラッツェ”

2006.10
No.003
夏・秋号

“グラッツェ”とはイタリア語で“ありがとう”の意味。陽気なラテン民族の言葉に倣って、素直に感謝の言葉を口にできる明るい場作りを、本学科は心がけています。

本誌は学生が主体となって企画・編集をおこなっています。

《 単位交換留学、第一期生たちの近況報告 》



留学生たちから添付メールで送られて来たスナップショット

2005年度に新設された国際コミュニケーション学科。2006年度には二年次に進級した学生の中から、提携校への単位交換留学を認められた一期生の学生8名が、海外へと旅立ちました。長期留学の斡旋をしている国際教育センターでは、現地に赴いた学生たちが元気に現地生活を満喫しているか、健康面は大丈夫かなどのサポート体制を取って、メールで連絡を取り合っています。そこで今回は、その一部を抜粋し、現地で英語習得に励む本学科の学生達の声を集めてみました。

●Junko.S
（ニュージーランド・マッセイ大学）

ニュージーの人は寒くても元気で、半袖です。学校ではニュージーの歌を歌ったりしています。私のクラスには日本人が私を含めて4人いますが、あとはみんな違う国の人たちと一緒に勉強しています。タイから15人も新しい人が来てクラスの人数が急に増えました。昨日は私のクラスにいた男の子が自分の国（サウジアラビア）に帰っていきました。彼は6ヶ月ここにいたみたいなんですけど、とても英語が上手でした。わたしも日本に帰る頃には今よりももっと英語が上達できるように頑張りたいと思います！私は昨日フリスビーの試合をしたために筋肉痛で体が痛いです。でもこっちに来てから久しぶりにおもいっきり体を動かせたのでとても楽しかったです。

●Yuuta.K
（米国・カリフォルニア州立大学サクラメント）

アメリカ来てからかなり時間がたったのでだいぶ慣れてきました!!　体調は全然OKな感じです!!　外に出て近所の人に会ったら少しですけど話すようにしてます!!　昨日も13歳の子供とゲームについて話しました。ホストマザーが韓国系の人（ちなみに彼女の母語は韓国語）なので、家の中だと韓国に来てるみたいです。毎日コリアンフードを食べています!!　ホームステイ先同様、学校にも韓国人がいっぱいいます。今は、BE動詞の使い方から始めて未来形を勉強してます!!

●Riki.O
（米国・カリフォルニア州立大学サクラメント）

体調はおかげさまで万全ですよ!　こっちの生活は、食がとにかくハイカロリーで困ってます（笑）。確かに空腹になるよりはましですけど、たまに油どれだけ!?って時がきついです（笑）。学校の授業もひとコマ50分しかないので、すごく集中できていい感じです!　しかも日本人の生徒が僕を含めて3人しかいないので、良い環境だなぁと思います。

●Chisato.I
（オーストラリア・フリンダーズ大学）

こちらは、日本人が結構いて驚きました。そして、韓国人も。とても田舎です。本当に…ここの田舎いいんですけど…（笑）、って感じです。私の地元も負けないくらい田舎ですけどね。明日で最初のセッションが終わります。あっという間でびっくりしています。

●Kurumi.O（アイルランド・リムリック大学）

来たばっかの時は悩みまくってたけど、今はもう慣れてきて楽しんでます☆　ホストがかなり優しいし☆　病気の子供にご飯を食べさせたりするボランティアのクラブに入るつもりです。…明日詳しく聞きに行きます!!　休みは映画に行ったりショッピングにいったりしています。…友達みんなでそれぞれの国の料理を作りました!!日本、スペイン、ドイツ、イタリア…!!　スペインの料理パエリア、めっちゃおいしかったです!!　こっちは主食がポテト、毎日ポテト（笑）。お肉も日本にいたら食べないけど、出されたら頑張って食べてます…。けど豚の血を固めたソーセージだけは、断固拒否しました（笑）。

●Wakana.O
（オーストラリア・フリンダーズ大学）

元気です。授業自体は明星のコミュニケーション外国語Iaとかの授業と変わらないんですが、周りが日本人じゃないだけで、そこからいろいろ世界が広がって楽しいです。今のところ無遅刻、無欠席です!!　宿題も忘れたことないです!!予想通りアジアンが多いです。韓国語にも興味あるし、行ってみたくなった!恋愛の感覚が本当に違って話を聞くと驚きっぱなしです。

学会でアイルランドに行った教員が、ちょっと足を伸ばして留学中のOさんを訪ねるということもあった前期。後期も順次、留学許可を出された学生達が続々と海外へと旅立ちます。彼らがどんな風に成長しているか、GRAZIEでは今後も彼らを追いかけます。

国際コミュニケーション学科スタッフトリビア

お転婆なM先生。カナダで日本語教師をしている時、既に結婚して旦那さんと一緒に暮らしていたにも拘らず、二人だけだと英語力が伸びない&カナダにいる意味なし!　と、現地人女性も生活に加わってもらったらしい。＝“3人”の新婚生活。「家事も分担制。別によくあることよね?」←さすがM先生!

●こんなことやりま

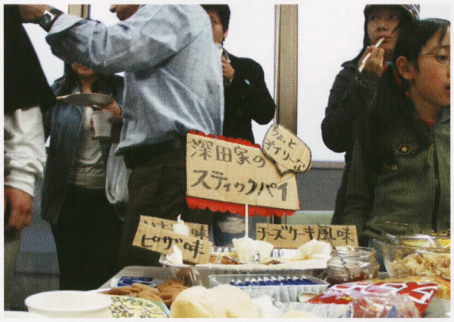
創設2年めに突入した国際コミュニケーション学科。喜びあり、笑いあり、勉学に勤しむ姿あり…　上

4/4.5 オリエンテーションキャンプ

開催地は明星学苑の八ヶ岳山荘。150名弱の一年生が四台のバスに分乗し、キャンプ地へと向かいました。今回、硬い説明では印象に残らないのではと考えた茅野先生が、自ら脚本を執筆。解説をコント風に仕立てて学生達に分かりやすく見せたところ、これが思わぬ大反響を呼びました。制度変更により留学しても留年する必要がなくなったこと、そして学費の二重払いをしなくてもよくなったことなどを、コントで説明。深田先生が迫真の演技でアドリブ芸を織り込む度に、会場は大爆笑の渦に包まれました。「あんな風に先生方がひょうきんだなんて思っていなかったので、なんだか急に身近に感じました」。

今回は学科二年生が有志ボランティアとしてキャンプに参加しました。机を運んだり、配膳の準備をしたりと、二年生17名が縁の下の力持ちとして大活躍。普段希薄になりがちな縦の人間関係を作ることができました。「皆さんの中には、まだやりたいことが自分でよくわからなくて迷っている人がたくさんいると思います。でもそのやりたいことは、これからなんでもやってみて、その経験の中から探せばいいんだと思います。わからないことがあったら、気軽に二年生に声をかけて下さい、ここは“コミュニケーション学科”ですから(笑)」と二年生のキャンプリーダーが最後に挨拶。キャンプの幕引きには、涙も見られました。

4/26 ポットラックパーティー開催



一人暮らしを始めた新一年生を応援するためにパーティーが開かれました。ポットラックとは、お互いに食べ物を持ち寄って、それらを飲み食いしながらわいわいやるという意味。続々といろんな種類の食べ物が教室に運ばれてきました。上品なところでは、クッキーに紅茶シフォンケーキ。たこ焼き器でホットケーキを作ってみる(?)というユニークなメニューも登場。本場の中国料理もお目見えし、中国出身教員お手製の上海風鶏や、西安風ラップポテトなどもテーブルに並びました。

中盤には、客員講師ウォーカー先生、ブスターニ先生がギター&ハーモニカによるデュエットを披露。エリック・クラプトンの名曲を、明星大学の歌“Wonderful Meisei”(!)に替えてしまう一幕も。一年生、二年生に加え、四年生や大学院生、外国大学からの客員教員、基礎ゼミ教員など30名以上が参加し、会場が狭く感じられるほど、熱気に溢れていました。

5/14 国際舞台で活躍する方から現場の声を聴く授業

(社)シャンティ国際ボランティア会　海外事業部・企画調査課課長補佐　市川斉氏がゲストスピーカーとして来校、「世界の難民問題:アフガン難民とミャンマー難民への支援活動」をテーマに、授業を行ってくれました。現場で仕事をしている方からの生の話は、学生たちにとってもかなり興味深かった様子。授業後、以下の感想が先生のもとに寄せられました。

◆新聞ではミャンマー難民をよく目にしていたが、現状を聞いたのは初めてだった。実際に自分の目で現状を見に行きたいと思った。(I)

◆「心の栄養」である絵本を贈る活動をするNGOがあると初めて知りました。(K)

◆市川さんは難民は本国に戻ることが一番の解決だとおっしゃいました。私もその通りだと思います。将来母国に戻れるようになった時、内戦に反対できるような人間になれるよう、シャンティボランティア会のようなNGOが必要なのだと思いました(N)

この授業を担当した毛利先生は、「国際協力という場所で世界に貢献できる学生がこの学科から誕生してくれればいいですね」と語ってくれました。

6/4 『中国語スピーチコンテスト』で学生が受賞

日中友好会館にて、桜美林大学主催/在日中国大使館後援の『中国語スピーチコンテスト』の最終口頭発表が行われ、全国から集まった学生達が、それぞれ日頃から身につけてきた中国語のスピーチ能力を競い合いました。明星大学からは8名の学生が応募、うち4名が事前の原稿審査をパスし、「初級の部」の最終口頭発表に出場しました。結果は……なんと4名全員が受賞をするという快挙!受賞式では次々に明星大学の出場学生の名前

国際コミュニケーション学科スタッフトリビア　中国語・英語と両刀使いのSスタッフ。短大→社会人(シンガポール駐在)→大学に編入→次は大学院へ?　院の願書を持ったSさんに先生が何気なく言った。「院よりも外国へ行けば?」。そして一週間後。願書は航空券に代わり、Sさんは北京にいた。そして流れ流れて明星へ←ここから先はどこへ!?

した！ 4月→8月編

半期、学科では様々なイベントが行われました。それをまとめてここで、一挙公開！

が読み上げられていき、応援にかけつけていた学生の友達やお母さん、そしてそれまで中国語の指導をしてきた教員から、明るい歓声が上がりました。受賞した学生は以下、です。

3等賞　佐藤洋一（英文4年）
参加賞　木下芙美子（教育3年）
　　山崎絵里子（国際2年）
　　比留間さゆり（国際1年）

担当した張暁瑞先生は「学生たちの頑張り精神を見て、私は大変感動し、大きな刺激を受けました。その結果、私自身もいろいろなところで頑張りたいという気持ちがより強くなりました」とのコメントを寄せてくれました。

6/24 本学科のユニーク授業、TV取材を受ける

毎週土曜日に行われている『文化文学研究Ⅰ』の授業が、TV番組の取材を受けました。この授業の担当は、ドラマセラピーという芸術療法の分野では第一人者の尾上先生。セラピーを通して自己表現力をブラッシュアップし、コミュニケーション能力を高めることを目標にしています。（4Pみつけちゃったオモシロ授業に関連記事）

ドラマを演じ「別の人間」になりきることによって、普段押し込めていた感情や言いたいことを表現し易くなり、心の浄化を図るというこの授業。浄化された心で他人と接し、その様々な方法を多角的に見ることで、多様な相手の立場というものを理解することができるようになり、コミュニケーション能力もアップします。日本ではまだあまり知られていないドラマセラピーですが、既に学生達の間では「斬新だ」「感情を演劇に入れ込めるので、授業後すっきりした気分になる」「心が和む」「演劇を通じて人にはいろんな立場があることがわかり、他に対する理解度が高まった」と評判も上々。

9月中には教育番組『すなっぷ（水曜夜）』で放映されます。

6/29 『明星中国菜美食節』開催、みんな手作り餃子に舌鼓

中国文化を身近に体験できる場があれば、という主旨の楽しいお祭りが行われました。総勢50名以上が参加するという大賑わいとなりました。

食から文化に触れられる、となれば、当然みんなが期待するのは本物の現地食。そこで、中国・西安出身の専任講師、張暁瑞先生が本場の技を伝授。餃子の皮はお店で買うものと思っていた参加者たちをよそに、張先生は手際よく小麦粉を丸めてぽってりとした厚めの皮を作っていきました。「やっぱり手作りの皮は違うねー！」と、モッチリ感のある食べごたえのたっぷりの餃子にみんな大満足。上海出身の厳明先生お手製中華サラダも、卓上に登場しました。張先生が持参したチャイナドレスに着替えて、パーティーの主役となった女子学生たち。男子学生がカツラをかぶってチャイナドレスを身につける場面もあり、会場には華やかな中国美人が溢れていました。

7/10 アナスターシャさん、ケニアの文化を授業で披露

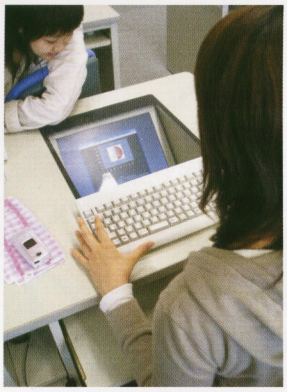
この日はケニアのアナスターシャさんが来校されました。幼少時代はカンバ族の村で育ち、地平線の見える大地でヤギを追う生活をしていたという彼女。ナイロビ大学に進み、そこで日本人カメラマンの旦那さんと出逢い、現在は日本で暮らしています。授業はアナスターシャさんの話を聴くだけでなく、学生達が質問用紙に質問を書き、それをアナスターシャさんが一つ一つ答えていくという形で行われました。

Q：ケニアで、日本はどういうイメージでとらえられていますか？
A：空手とか、車とか…。真新しいというイメージですね。
Q：なんでアフリカの人は足が早いんですか？
A：（笑いながら）…。たぶん標高が高いせいと、ヤギを追うような生活をしているからかな。
Q：ケニアの人は何をするのが好きですか？
A：踊るのが大好きですね。結婚式では、何百人という人が集まって踊るんですよ。
Q：アフリカの人って目がいいんですよね？
A：そうですね。ケニアは月明かりだけでも結構明るいので、電灯のない暗闇でもみんな平気で歩いています。日本の人達よりも、目がいいと思います。

「日本にいると地平線が見えなくて、壁がとても多いですね」というアナスターシャさん。文化人類学が専門の菊池先生のクラスでは、そんなアフリカをもっと知るために、フィールドワークでタンザニアザンジバル島へ行く授業も企画され、6名がこの夏アフリカ初上陸をしてくる予定です。

国際コミュニケーション学科スタッフトリビア　Tスタッフの前職は、元旅行会社の社員さん。「アフリカ大陸と南極と北極以外は、全部行っちゃったなー」「何カ国くらいですか？」「50カ国以上かなー」とさらりと話すTさん。「でも今はそれより、学生さんのサポートの方が楽しいねー」←どうも学生さんの方が世界旅行より価値ありのようで

発行・編集：明星大学 人文学部 国際コミュニケーション学科 〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1
編集部お問い合せ：042-591-5329 または muisjimu@eleal.meisei-u.ac.jp



私達の施設自慢

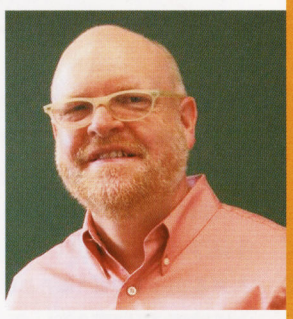
他大学には絶対にないに違いない特筆すべき施設とは？

「こんな施設・利用法があったとは!」と驚いたのは、明星大学国際コミュニケーション学科の「コミュニケーション外国語Ⅰc」の授業で使用したCALL教室でのこと。この授業自体は英語学習用のゲームを使いながら基礎知識から応用までの学力向上をはかるというもの。英語学習は主に「書いて読む」が基本なわけだが、ただテキストを開いてノートに写して、書いて…これだけでは誰でも飽きる上、大学生ともなると「いまさら英語の基礎なんか」という意識がうまれてしまうもの。こんな意識を打ち砕くために導入されたのがこの英語学習ソフトだった。クオリティーの高い映像と音声で、自身のレベルに合った内容を学ぶことができる。英語スキルのランキングが表示されるたびに、皆やっきになって学習に取り込む姿をよく目にする。授業外、放課後でも使い放題の英語教材の数々には驚かされたが、これがあってこそ大学、これを十分に利用してこそ大学生。そう思わずにはいられない、設備のうちのひとつだった。国際コミュニケーション学科の学生達が集う場になっているCALL教室は、今日も振やかに活気付いている。（渡辺）

覗いちゃったオモシロ授業

コレハオモシロイ！そんな授業を学生記者が体験レポート

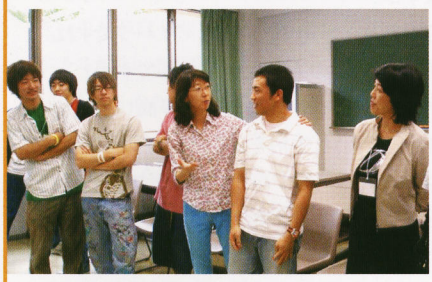
新入生が入学して初めて受ける講義は毎週2回、朝一（1限）にある「英語学研究」です。分厚い専門書を片手にいざ初講義！　意気込んで行った講義室にいらっしゃったのは、見た目は生粋のアメリカ紳士！　お名前をJohn Ingulsrud（ジャン・イングルスルード）先生といいます。日本語でも理解に苦しむ学問の講義が先生にできるのか？　などと、最初は大変失礼な先入観を持って臨んだ講義でしたが、先生の第一声はとても流暢な日本語でビックリしたのを覚えています。講義は全編日本語。流暢さに驚くだけでは終わりません。緊張しっぱなしの新入生をリラックスさせたのは、言うまでもなく先生でした。表現力豊かなジェスチャーを巧みに駆使して講義をスタートさせたのです。私たちが理解に苦しむはずだった「音声学」や「意味論」を言葉巧みに理解させる先生の語彙数、はたまた講義中の先生の話術には感服しました。学生の失言にはとても厳しく注意する先生ですが、普段は常に笑顔を絶やしません。とても接しやすいという、キャラクターも手伝って学生に大人気です。見た目からは想像できないようなすばらしい日本語で、今日も先生は講義に研究にと励んでらっしゃいます。（渡辺）



みつけちゃったオモシロ授業

コレモスゴイ！そんな授業を学生記者がまたまた体験レポート

みなさんは「ドラマセラピー」とはどのようなものかご存知ですか？　ドラマセラピーとはドラマ（演劇）を演じ「別の人間」になって、自分の感情や言いたいことを吐き出して癒しを得るという芸術療法のこと。このドラマセラピーの作用や必要性を講義中に取り入れ、実際に学生同士で演じることにより自己表現力の向上やコミュニケーション力を高めることを目指す内容の講義を行っているのが毎週土曜日2,3限にある尾上明代先生の「文化文学研究Ⅰ」。1限では尾上先生のドラマセラピーの過去の体験談と、そのときに得られたドラマセラピーの効果などを講義形式で教授してくれる。1限後半から2限にかけては、演じるドラマの「テーマ」を決め、それぞれが役割を与えられて、即興劇を学生同士で演じてゆく。演じてゆく中で、学生が多様な考え方や表現力を身につけてゆく。小難しい講義のように捕らえられるかもしれないが、授業はとてもアットホームな雰囲気。不思議なことに私自身その場で演じたり学生同士で話をするだけで、心が和んだ気になる。講義のようで、講義でない。斬新さを感じる授業です。（渡辺）



気になるあの子にインタビュー！

どんな子が何をしているのかな？

今回インタビューに協力してくれたのは佐藤千尋さんです。ネイティブスピーカーの人となんということなく会話できてしまう彼女は「気づいたころには英語を習い始めていたから、自分にとってはスゴイことじゃなくて当たり前のことだと思ってる」。そう語るが、英語をめっきりといっていいほど話すことができない私には衝撃と捕らえるべき一言。彼女は現在「文芸部」「占術部」「TRPG研究会」の3つの部活・サークルに所属していて、週に何日かは遅くまで学校に残っているとか。最近ハマっているものは？　の質問に「TRPG!」と即答した千尋さん。TRPGのどんなところがいいの？　という質問に「TRPGはテーブルロールプレイングって言うのだけど、想像力でストーリーを展開させ、会話をすることによってゲームが成り立つ。このゲームの一番の利点はコミュニケーション力がつくことだと思う」。私たちの学科のテーマをゲームで学べるの、それって得じゃない？　と語る彼女はとても自信に満ち溢れているように見えました。最後に、これから新たに習得したいものはありますかの質問に「ドイツ語だね」と言語に対する貪欲さを見せ付けてくれた千尋さんでした！（渡辺）

Wanted

◇学生編集スタッフ募集中！

将来マスコミの仕事をしたい人、またはイラストなどで自己表現をしたい人、記事を書きたい人など常時募集中。企画段階から実際に形にしていくまで、全てを自分で体験できるので、とてもやりがいがありますよ。積極的な参加をお待ちしています。

◇これは是非載せて欲しい！の記事&情報大募集

“GRAZIE”は、学生のみなさんと作っていくメディアです。より充実した内容にしていくために、どんな些細なことでもネタをお待ちしています。

〔応募先〕〒191-8506　東京都日野市程久保2-1-1明星大学国際コミュニケーション学科
Tel 042-591-5329またはmuisjimu@eleal.meisei-u.ac.jpまで

【編集スタッフの呟き】

ベトナム・カンボジアへ行っていた。数年前には1,2カ所しか開いていなかったアジアの国境が続々と開き始めていた。ヒトもモノも国境を軽く越えて勢い良く移動する時代。本学科の学生も続々と、留学という空間移動（？）を始めている。

国際コミュニケーション学科スタッフトリビア

ユニークさを共通点にした本学科の先生方が世界に散ってゆく夏休み。ところが。「先生は今年の夏どこへ行くんですか?」「ロンドンです」「いや偶然ですね、僕もロンドンです」「まあ、私もロンドン!」「では現地で会議でなく、お茶しましょう!」←やはり“同志”、どこにいても惹き合うのですね

FREE MAGAZINE